

平成28年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析 (成果と課題)
(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。	① 児童生徒の主体性を引き出すための、授業改善や学習環境の整備、教材教具の工夫を行う。	児童生徒の主体性を引き出す学習環境や教材教具 (ICTを除く) を何点準備できたか A : 5点以上 B : 3点以上 C : 1~2点 D : 0点 【達成基準】 B以上	各教員の達成度の割合(単位%) A B C D 小 33.3 66.7 0 0 中 46.2 53.8 0 0 高 37.5 62.5 0 0 分 33.3 66.7 0 0 全体40.0 60.0 0 0	全職員がB評価以上に該当し、良好な状態である。児童生徒の主体的な姿を引き出すための、教室環境の整備や教材の工夫をすることは大切なことであり、今後とも継続して取り組みたい。
	② 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関の割合 A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満 【達成基準】 B以上	回答数 98 授業への満足度(4項目) 95.9%	授業内容のわかりやすさ、教員の児童生徒とのかかわり方、教材などの工夫、学習環境の4点についてアンケートで質問している。いずれの項目もマイナス評価が極めて少なく良好な状態であると言える。アンケートで問うた項目はいずれも授業改善に関係するものであり、今後とも継続して取り組んでいきたい。
	③ ICT機器を活用し、児童生徒が主体的に取り組む授業を実践する。	児童生徒が主体的に学ぶために、ICT機器を活用した授業の回数 A : 10回以上 B : 6回以上 C : 3回以上 D : 3回未満 【達成基準】 B以上	各教員の達成度の割合(単位%) A B C D 小 25.0 75.0 0 0 中 45.5 54.5 0 0 高 50.0 45.8 4.2 0 分 100 0 0 0 全体46.0 52.0 2.0 0	評価B以上の教員の割合は90%を超えている。また、C評価も減少しており中間評価より改善している。校内推進組織であるチームICTの調査では、タブレット端末の活用の課題があるので、今後の活用の広がりのために、チームICTを中心として情報発信を積極的に行っていく。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 授業改善については、学校研究として、授業実践をとおして仮説検証型の取り組みを継続していることはよい。今後も継続して取り組んでほしい。 教材等の工夫に関しては、児童生徒への効果という視点を逃さないように取り組んでほしい。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 学校研究等とおして授業実践に取り組み授業改善を行って、児童生徒の主体性の育成に努める。 教材教具等の工夫に関しては、評価の達成度判断基準に「効果的」という文言を加えるなどして、意識した取り組みを行う。 		

平成28年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校 (No.2)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析 (成果と課題)
(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	① 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に活かし、実践する。	錦城版キャリア教育プログラムを教育支援計画等に活かし、保護者にも十分な説明ができたか A：十分な説明ができた B：説明ができた C：十分な説明ができなかった 【達成基準】 A+Bが70%以上	≪教員：単位％≫ A B C 小 0 81.8 18.2 中 0 90.0 10.0 高 13.1 82.6 4.3 全体 6.8 84.1 9.1 ≪保護者：単位％≫ A B C 未記入 小 28.6 57.2 7.1 7.1 中 23.5 76.5 0 高 39.4 57.6 3.0 全体 32.8 62.5 3.1 1.6	A評価の割合が、中間評価時よりも教員・保護者とも減少している。保護者アンケートには「説明があったとは思いますが覚えていません」というコメントもあった。チェック方式にしたことで、保護者にとってもわかりやすくなったが、取り組みの仕方の改善が必要である。
	② 教員自らが見本を示すことで、様々な場面であいさつができる児童生徒を育てる。	あいさつの仕方に向上が見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 【達成基準】 B以上	チェックシートによる向上が見られた児童生徒の割合(単位%) 小 69.2 中 57.9 高 86.5 全体75.4	チェックシートの5月と2月を比較して向上したとする割合は、C評価の状態である。中間評価後に教員側のチェックシートの活用意識を高める取り組みを行い最終評価では全体として向上した児童生徒の割合が20%以上増加した。指標を持った取り組みは大切であり、意識付けを行う取り組みを継続したい。
	③ 保護者が希望する進路情報を提供する。	学校からの進路情報はわかりやすく参考になったかどうか A：十分参考になった B：やや参考になった C：あまり参考にならなかった D：参考にならなかった 【達成基準】 A+Bが70%以上	≪保護者：単位％≫ A B C D 小 7.1 78.7 7.1 7.1 中 17.6 82.4 0 0 高 30.3 66.6 0 3.1 全体 23.4 71.9 1.6 3.1 ≪教員：単位％≫ A B C D 小 0 45.5 54.5 0 中 10.0 90.0 0 0 高 13.0 82.6 0 4.3 全体 9.1 75.0 13.6 2.3	保護者評価は達成基準に達しており、良好といえる。中間評価との比較でもAが増加し、CD評価は前年度より大きく減っている。教員アンケートを見ると、学部によってばらつきはあるが、小学部でのC評価が多く、特別支援学校の教員としての自己研鑽を促す必要がある。保護者への情報提供に関しては適時性や量を勘案しながら取り組みを工夫したい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動等の取り組みで、チェックシートを用いたことはよい。ただ、苦手意識のある児童生徒もおり、配慮した指導にしてほしい。 小・中学部におけるキャリア教育には漠然としたわかりづらさがあり、あいさつのように具体的な取り組みができるとよい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> あいさつに関してはチェックシートによる個人内評価で向上を図りたい。また、錦城版キャリア教育プログラムの具体的な取り組みを評価項目に組み込み取り組みを進めていく。 			

平成28年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校 (No.3)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析 (成果と課題)
<p>(3) 児童生徒の健康の維持、体力の増進に努める。</p>	<p>① 体づくりや体育の授業を通して、児童生徒の体力向上に努める。 また、重度重複児童生徒の健康維持増進、身体機能の維持に努める。</p>	<p>《小》体力の向上が見られたとする児童の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成基準】 B以上</p>	<p>チェックシートによる伸びが見られた児童の割合 90%</p>	<p>「のびのびタイム」の時間での柔軟・姿勢改善・バランス・走跳筋力等の運動について、5月と2月の比較を行った。評価Aであり良好な状態である。今後も継続した取組を行っていく。</p>
		<p>《中》体力の向上が見られたとする生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成基準】 B以上</p>	<p>伸びが見られた生徒の割合 ・瞬発力：86% ・全身の持久力：70%</p>	<p>日常の「体づくり」や体育の時間を通して、毎日運動する時間を確保し取り組んでいる。5月と2月に2つの項目で体力テスト等を行い、その項目によって、評価はAとBとに分かれた。今後も継続した取り組みを行ってきたい。</p>
		<p>《高》体力の向上が見られたとする生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成基準】 B以上</p>	<p>《Aグループ》 新体力テストを実施し、伸びが見られた割合：47.8% 《Bグループ》 反復横とびで向上した生徒の割合 62.5%</p>	<p>日常の「体づくり」や体育の時間を通して、毎日運動する時間を確保し取り組んでいる。2つのグループに分かれて取り組みを進めたが、達成度判断基準には達していない。しかし、一部の項目では達成したものもあり、生徒が記録を意識して意欲的に取り組む姿も見られた。今後も、生徒に目標を意識させ継続して取り組んでいきたい。</p>
		<p>《肢》児童生徒の健康の維持増進に向けて新たに組み込んだ件数の平均 A：3件以上 B：2件以上 C：1件以上 D：1件未満 【達成基準】 B以上</p>	<p>今年度中に新たに組み込んだ件数の状況(単位：件数) 平均 3.9</p>	<p>達成度判断基準は達成しているが、対象児童生徒により数にばらつきがある。以前よりの取り組みが効果的である場合もある。肢体不自由のある児童生徒のからだの動きや健康づくりには、医療等外部専門家の視点も大切であり、そうした視点からの取り組みの改善も今後も続けていく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・体力向上の取り組みはよい。特に体幹トレーニング等は自宅でも活用している。評価に至るまでの日常的な取り組みをしっかりと計画的に進めてほしい。 ・児童生徒に「自分はどこを頑張ったらよいのか」等を意識させる工夫をもっと行えるとよい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・日常的な取り組みは評価されているので継続していく。体力テストにはさまざまな項目があり、重点的に取り組むことを絞るなどの工夫を行って進めていく。また、児童生徒が取り組みを意識できる工夫を行っていく。</p>			

平成28年度 自己評価最終評価結果

石川県立錦城特別支援学校 (No.4)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析 (成果と課題)
(4) 地域との交流を促進し、情報を発信することにより、社会への理解啓発を図る。	① 公共施設の清掃や作業製品の販売を通して本校の取り組みを地域に発信する。	地域活動及び地域の方と接する活動の年間回数 A：20回以上 B：18回以上 C：15回以上 D：15回未満 【達成基準】 B以上	2月末までの回数 ・清掃活動：9回 ・販売活動：8回 ・接客活動：2回	回数の総計は19回で、達成基準に達している。生徒たちも学習活動の成果を発揮できる場として、意欲を持って頑張っている。生徒の技能や意欲を向上させる取り組みでもあり、次年度も積極的に地域に向けて活動していきたい。
	② 錦城RUN舞のよさこい披露を通して地域との交流や理解啓発を図る。	地域行事でよさこい披露に参加した児童生徒と教員数の合計平均 A：35人以上 B：30人以上 C：25人以上 D：25人未満 【達成基準】 B以上	生徒 教員 ・アグリ加賀 17 25 ・南陽園 18 16 ・十万石祭り 16 23 ・幸徳園 11 18 ・錦城学園 18 16 平均35.6人	よさこいソーランの活動は、外に本校の様子を発信するツールの一つである。校外での活動は、土日の実施でもあり、児童生徒の参加が固定化しつつある。今後も保護者の方々への呼び掛けの工夫等を考えていく必要がある。
	③ ホームページで児童生徒の活動の様子を発信することにより特別支援教育の理解啓発を図る。	各学部が一年間に行ったホームページの更新の回数 A：40回以上 B：30回以上 C：20回以上 D：20回未満 【達成基準】 B以上	2月末段階の各部の更新回数 ・小 45 ・中 25 ・高 31	1年を通した取り組みである。中学部のみ目標に達していないが、全体として、積極的な情報発信になっている。ホームページを閲覧する人の立場に立ち、適時性のある情報発信にこれからも努めていきたい。その際は、行事の様子の発信が多かったが、日常の教育活動もぜひ発信し、本校への理解啓発が進むようにしたい。
学校関係者評価委員会の評価	・ホームページはよく更新されているが、たとえば、よさこいや販売活動は事前の案内も載せると、それが宣伝にもなる。作業の新製品情報もあるとよい。そうしたことにより相乗効果で学校への理解が深まるのではないかな。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・これまで、事後の報告が主であったが、事前案内も積極的に出していきたい。また、適時性を特に大切にして情報発信を行ってきたい。			